

令和4年度図書館そだて会議@美甘図書館 議事録

日時：令和5年(2023年)1月18日

午後3時30分～4時50分

一般参加者：8人、図書館：6人

1、開会

あいさつ（石田）

自己紹介

2、市立図書館の現状とめざすものについて

みらい計画の概要・美甘を含めた市立図書館の現状や課題・図書館業界のトレンド（上杉）

3、美甘図書館のこれから

① 活動計画の説明（式見）

別紙参照

② フリートーク

事務局で考える課題：

- ・新規利用者の開拓
- ・美甘地域資料の整備
- ・利用しやすい環境整備

【参加者からの意見】

- 小学校はスクールバス利用中心のため放課後の図書館利用が難しい。また休日は親の送迎がないと利用できないという背景がある。その結果、美甘は図書館を知らない子が多いのではないか。たとえば、学校の昼休みにブックるんまにわが利用できるようにし、図書館利用に結びつけられないか。
- 図書館が2階にあることで、利用者の足が遠のいているのではと感じる。また本に対する敷居が高いと感じている人が多く、そのあたりが図書館の利用につながっていないのではと感じる。たとえば、愛育委員が毎月1回ロビーで行っている「ふれあいカフェ」実施日に、いくらか本を持って出張してはどうか。
- 利用が増えれば図書館が活気づき、新しい本も購入してもらえらるだろうと、微力ながら、利

用回数を増やしている。

- 図書館を広くできないか。今公開している2室がつけられるよう、壁をとることはできないか。特に奥の部屋（学習室）へは行きづらい。
- 図書館が2室に分かれていることで、十分に目が届かない。たとえば、子どもたちの利用をずっと見守ることができない。そのため、現在は、出入り口2カ所のうち学習室の出入り口は施錠し、1カ所のみになっている。休日は、振興局職員も日直のみ、防犯上の不安も感じる。
- 美甘図書館としてどうあるべきか。地域の実情として、子どもたちの居場所がないようであれば、心地よい居場所にしていくような方向性もあるのではないか。もし、マナーとして悪いところがあれば、ルールや運用で排除するのではなく、大人がしっかりかかわり教えていけばよい。防犯上、そこまで警戒しなければならぬ状態なのかは疑問。
- 郷土資料の充実は大切。美甘中学校が廃校になり、中学生になると勝山中学校へ行くため、美甘のことを教えるのは小学校の間だけになっている。中学校へ行けば勝山のことしか学習しない。地元への愛着・地元のことを知っている子がいなくなる。
- 「美甘100年 なんと昔があったそうなの」というDVDをふるさとまつり・文化祭で流していたら、懐かしさも感じたし、立ち止まって見る人も多かった。借りたい・買いたいという人もいた。現在、美甘図書館には、視聴覚資料はそろえておらず見る環境が整っていない。（本DVDも所蔵しておらず、他館から取り寄せ。）視聴覚資料も見られるよう資料や環境整備も行っていきたい。
- 夏まつりでは美甘音頭の踊り行列に多くの参加者があったが、踊り方を記録したものがない。記録DVDを作成し、後世に伝えたい。踊る前には見て練習してもらうことにも使える。
- MITの「美甘地区」の映像資料をまとめて購入して、美甘図書館に所蔵することはできないか。中央図書館で、図書館資料として公開できるようMITと話を付けて欲しい。

4、その他

美甘図書館だけでできることは限られる。今日お越しの皆さん、関係団体の皆さん、中央をはじめとした図書館のネットワーク、いろいろなご協力が必要。よろしくお願ひしたい。

5、閉会

16:50 終了